

# 1. 評価報告概要表

作成日 2008年2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072400342
法人名	有限会社 ドリームサトウ
事業所名	グループホーム もみじの里
所在地	群馬県富岡市妙義町大字上高田660-1 (電話) 0274-70-0222

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月13日

## 【情報提供票より】(20年 1月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日 800円			

### (4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院・七日市病院・富岡成清医院・黒澤歯科クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山を背にし、妙義山麓の閑静な場所に立地している。建物の裏には竹藪があり、建物は陽だまりにある。共用空間は広く、天井の明り取りからの採光も十分である。開所以来の職員で「ゆったりとした時間の中穏やかな、安心のある暮らしを」を理念とし、1日の生活の流れは各自の自由に、散歩をしたり、はり絵や折り紙などをしたり、本人の希望を考慮して支援している。また、車で買い物やピクニックに出かけたり、施設内でさまざまなイベントを実施している。管理者と職員共に、入居者の生活暦を良く知り、本人本位の生活支援をしている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員全員は評価の意義を理解し、自己評価・外部評価を活かして、「理念を職員が共有し、玄関に掲示する」「食事での楽しい雰囲気作り」「金銭管理の力量に応じた支援」「緊急時対応と感染症対策のマニュアルの作成」「事故報告書やヒヤリハットの記録等事故防止に努める」等の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者、ホーム長が作成している。チームケアの考えを取り入れて、職員により具体的な検討を行い、独自の評価表を活かして、意識改革を持ってすすめられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市職員、区長、民生委員、入居者家族等による運営推進会議を、2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所の状況や行事について議題として話し合いを行っているが、評価については話されてはいるが、議題として話し合われておらず記録がされていない。また、市担当者との交流が、運営推進会議以外あまりなされていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者に、苦情等窓口の説明をしている。意見や要望は、家族の来所の時に聴取している。また、家族が運営推進会議に出席のときに意見をいただき、運営に反映している。入居者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来所の時に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人々の訪問があり、日常的な付き合いがある。地元中学生からの手紙や体験実習の受け入れ、その後の感想文を持って来る等の交流が行われている。妙義地区の運動会に招待される等、地域活動に入居者と共に参加し地元の交流に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時からの理念である「ゆったりとした時間の 中穏やかな、安心ある暮らしを」に基づき、その人らしく 暮らし続けることを支援している。地域密着型サービス に移行された後、理念の見直しが行われていない。	○	地域密着型サービスとして地域との関わりや地域との生活 支援などを職員で話し合い、開設以来の理念を見直され ることを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向 けて日々取り組んでいる	理念は、日々の申し送りやミーティングで管理者と全職 員が共有し、実践に向け日々努力している。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元 の人々と交流することに努めている	近隣の人々の訪問等、日常的に付き合いがある。ま た、地元中学生からの手紙や体験実習の受け入れ、そ の後、体験の感想文など持って来ている。妙義地区の 運動会に招待されるなど、地域活動に入居者と共に参 加し地元の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体 的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員は、評価の意義を理解している。前 回の評価を活かして、「理念は職員が共有し、玄関に掲 示」「食事での楽しい雰囲気づくり」「金銭管理の力量 に応じた支援」「緊急時対応と感染症対策のマニユ アルの作成」「事故報告書やヒヤリハットの記録」など改 善に取り組んでいる。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	区長、市職員、民生委員、入居者家族等による運営推 進会議を、2ヶ月に1回開催している。会議では、事業 所の状況や行事について議題として話し合いをして いるが、評価について話されてはいるが会議の中の議題 とされていない。	○	運営推進会議では、自己評価や外部評価の検討や懸案 事項の取組み状況の報告等を行い、評価の効果をより高 めるための改善経過のモニター役となってもらい、評価を 活かすための取組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、市の担当職員との交流があまりなされていない。	○	事業所の運営やサービス向上には市との協力関係は欠かせない。事業所からの積極的な情報提供を行うと同時に、地域密着型サービスについての方針などを知るためにも、継続的に行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近隣の入居者が多いため家族の来所が多く、入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の退職等については、来所の際に報告をしている。金銭管理は、月に1回直払いとしているのでその時に報告し、精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に、苦情等窓口の説明をしている。また、家族の来所の際に、家族の意見や要望を聴取している。運営推進会議に家族が出席し、意見をいただき運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職については、職員がさり気なくカバーして入居者にダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の質的向上を図るための現任研修や外部研修に参加出来るように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や講習会に出席し、同業者と情報交換をしている。今後、他のグループホームを見学研修することで、サービスの質の向上への取り組みを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、お茶を飲みながら短時間でも過ごしてもらい、余裕のある入居希望者には1週間位来てもらいながら徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が、料理の味付けや得意としている蕎麦うちなど教えてくれる。また、職員が落ち込んでいる時など、母のように慰めてくれる。職員も入居者を自分の親のように受け止めて、お互い支え合う関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常の会話の中から聞いたり、職員がさり気なく食事の時に思いを聞きとったりしている。また、把握が困難の場合は、申し送りで話し合ったり、カンファレンスで意見交換をし、希望や意向についての汲み取りに努力し、本人本位の支援をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から日頃の状況の中で意見や思いを聞き、職員のケアの考え方を聞き、プランに活かしている。カンファレンスでの意見も聴取し、入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事業所内で評価票を作成し、3ヶ月と6ヶ月の介護計画のモニタリングの中で見えたもの、職員からあがってきた情報、運営推進会議での家族の意見等、現状に即した計画の見直し作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望や本人の状況に応じて、外出支援を行っている。かかりつけ医への受診の付き添いや送迎をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は家族同行の時もあるが、職員が受診支援をしている。また、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と話し合っているが、重度化した場合や終末期のあり方について早期から話し合う体制は出来ていない。ホームの生活が無理な場合は、他のサービスを受けるように家族に勧めている。	○	早期に重度化に伴う意思確認を本人や家族と行うとともに、事業所が対応出来るケアについても説明を行い、意思確認記録など作成し、状況変化に応じて繰り返し話し合いそれらを記録し、関係者全員で方針を共有することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアで入居者の誇りやプライバシーに配慮し、損ねるような対応や記録の取り扱いはしていない。日頃より一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけを行っている。個人情報の取り扱いに関しては、契約時に家族に説明し、プライバシー確保について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間などの生活のパターンや好みを把握し、希望に添うようにしている。また、職員側の決まりを優先するのではなく、本人の日常の時々気持ちを優先した対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時には入居者の好みを聞いて、献立を考えている。食事中は、話をしたりテレビを見たり等、食事が楽しめるよう工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に火曜日から金曜日の午前中としている。本人の希望があれば、いつでも対応している。また、入浴を拒否する入居者には、家族の応援を得るなどして入浴出来るよう対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の楽しみや得意とするものを日々のなかから見つけて、草むしり、花の水やり等をしてもらっている。以前は手仕事などがあったが、現在は続かなくなってきている。テレビがとても好きな方、歌、話の好きな方には、職員が相手をして支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近隣への外出については、日々行っている。また、お花見、納涼祭、回転寿司等の外食などを行っている。入居者の希望に添うよう、ホーム長は車で利用者と一緒出かける支援もしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は、施錠の弊害については理解しているが、玄関のフロアーにソファーが置かれ入居者の集まる場所となっているため、入居者の安全を考えて、施錠している。	○	入居者が自由に出入りが出来るよう見守り方法の徹底を図る等検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の消火訓練や救急救命講習時に避難訓練の指導を受けているが、地域の人々との協力による避難訓練を行っていない。	○	災害時に地域の人々が応援に駆けつけていただけるような体制づくりや、避難訓練の場合も地域の人々の協力の基で行えるように、運営推進会議で防災について具体的に話し合う等、地域の協力が得られるように検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、好みのものや旬のものを取り入れ、栄養のバランスに基いて献立表を作成している。食事の量は、一人ひとりに合わせた量を決めている。水分については、毎日チェックし、水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は天井の明かりとりから光を取り入れ明るく、木の香りを覚えるような落ち着いた空間である。浴室、トイレ等は整理され、清掃が行き届いている。玄関にはソファが置かれ、入居者の持って来た観音竹などがあり、居心地のよい環境が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の好みや馴染みの物が置かれている。それぞれに日頃の手作りの作品や写真、花などが飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されている。		